



Rail On

15日(火)、市内の2年生と一緒にCHIKOさんの講演と歌を聴いてきました。
心に残る素敵なお話と歌声だったので、私がメモできた内容を少し紹介します。

演題「オムライスと出会うために」

母親は魚津市出身の人形作家。アクセサリーや衣装も作っている。

父親はアフリカのコンゴ出身のミュージシャン。いつも歌ったり踊ったりしている陽気な人。

父は劇団四季「ライオンキング」のパーカッションも担当していて、ほとんど家にいなかった。

私も父親の影響で小さい頃は一緒に歌ったり、踊ったりしていた。

幼稚園の頃、いつものように踊っていたら友達に「だれもそんなことしていない、はずかしくないの」といわれ、それから人前で歌えなくなった。

肌の色、髪の毛、見た目のことでも周りから色々いわれた。

色鉛筆や絵の具に「はだいろ」とあったけど、私の肌とは違う。社会全体が肌の色を決めている。

「私がおかしい」と思うようになり、人と違うことが恥ずかしい、みんなと一緒にになりたいと思った。

自分の思いが母に向かうようになり、「なんでこんな風に生んだん?」「普通になりたい」と、いった。

どうやってこんな自分を受け入れていったか。

中学生の頃は、コンプレックスがたくさんあった。人と比べてしまうので、人前が嫌だった。

高校生の頃、ストレートパーマをかけたり、日焼け止めを隠れて塗ったりしていた。

自分のことが嫌いだったが、ある日、一生隠れて生きていかなければならないのかと思った。

背中を押してくれたのが母だった。

「自分を嫌いなまま生きるには、人生は長すぎるよ」と。

今、自分が嫌いなら、ずっとこのまま嫌いになる。自分を好きになる努力をしよう。

どんな自分なら自分が好きになれるか。自分がないものを求めてもだめ。

自分にあるもので好きになろう。高3のとき、勇気を出して歌手の道を選んだ。

私は「うどん」が大好きで、朝昼晩と「うどん」でもいい。

だけど、食事に行ってメニューを見たら、パスタもカレーもオムライスもある。

たくさんの中から選ぶことができると、人生は豊かになる。

世界は広い。たくさんの文化、たくさんの人種、たくさんの人々がたくさん選択している。

その中から自分たちは選べる。

コンプレックスだったネガティブな面(肌、髪)が、ステージ上では目立ちポジティブになった。

日本では「人に迷惑をかけないように」と教えるが、インドでは「人に迷惑をかけて生きるのが当たり前だから、迷惑をかけられたら許してあげなさい」と教える。

一つの考え方が知らなかったら、その考えに縛られてしまう。違う考え方を取り入れることが大切。

みんなも人生の選択肢を増やして行ってほしい。

講演の途中に「Rail On」というコンゴの歌を歌われた。

「悩んで、悩んで、でも自分で決めた道なら、前へ行け」という応援曲。

CHIKOさんの澄んだ歌声が会場に広がり、「前へ行け」と力強く押されたように感じた。

私たちも、生徒が自分を好きになり、自分の道を進んでいけるよう背中を押していきましょう。